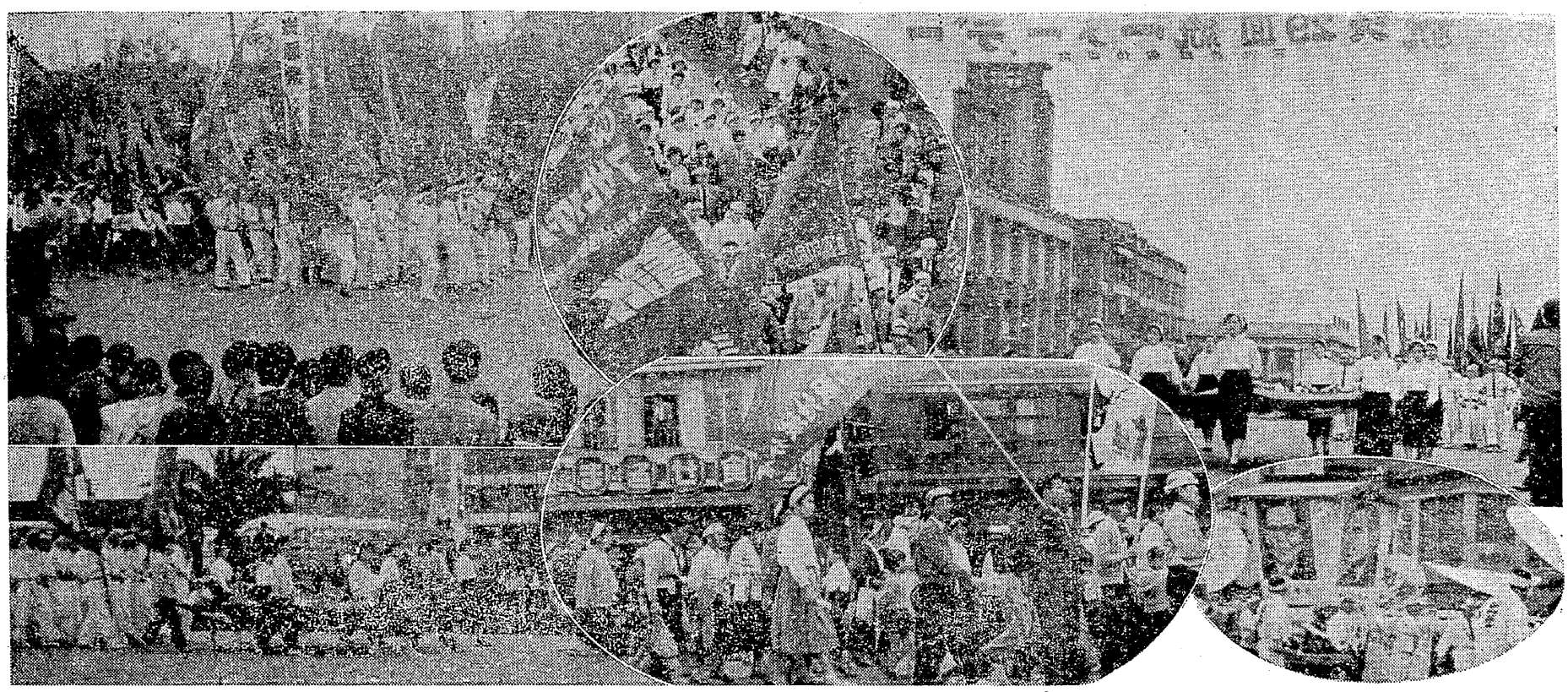

四百三十万人がつどう

総選挙へ決意も新た

人の波に埋る第29回メーデー

働くものの喜びを祝う第二十九回メーデーは、新緑に眺える全国五百七十九所で華やかに行われ四百三十万の労働者が参加して働くものの意気を示した。この日総選挙戦へのテープも切られたが、闘いの中で迎えたメーデーに集つた総意は選挙戦を闘い抜こうの決意を燃やして祭典を挙行した。

流石ミサイル時代

【大牟田地区】前日の豪雨に気遣していた天気も、曇りとなり、午前中に薄日の射す天候と変り会場に当てられた延命公園体育館前広場には定刻午前九時半をすぎても続々と各単産、家族たちがプラカードを掲げて繰り込んでくる。赤、青、黄と初夏の薄日を浴びて会場一杯に色彩のウズが巻き、目も覚めるような華やかさだ。

大地評傘下各単産に主婦団体、革商連など五万人が会場一杯に人の波をつくつた。

三鉱労組宮川組合長ら六人を議長団に選出、大会に入つた。祝辞には中央からかけつけた炭労政治局員、参議の阿部竹松氏も出席、働らくもののこのよき日を祝するとともに選挙戦の勝利を誓い合う旨のメッセージも贈られた。同じく田中稔男氏、稲富綾人氏、大洲正気の各氏も祝辞を披露、働らくものの社会の一日も早く実現することを誓つて会場が拍手のうずと化した。

スローガン採決、労働歌合唱ののち市中デモ行進に移り警察署前―溝町のメインストリートを経て東新町に至る間に延々と繰り出されたデモは市民の拍手を浴びた。ミサイル時代を反映して人工衛星も姿をあらわしたが、昨年の華やかなメーデーにくらべて、さすが闘うメーデーだけに、控え目な仮装が目につき、決意のほどがうかがえた。

【荒尾地区】午前十時から第二小学校々庭に荒地評翼下の三鉱労組市職組、電通、全逓、国鉄、統計第一紡績など十五単産約九千人のほか、主婦会、革商連、清黒農民団体が参加して開催した。

会場をどよもし〃幸せの歌〃で幕をあげた。農民組合県連西山執行委員長ら四人によつてメッセージが読み上げられ、「総選挙を家族ぐるみ、街ぐるみの運動に盛り上げ社会主義政権樹立にすすもう」と大会宣言を読みあげた。

このあと〃勤務評定反対〃〃全逓処分反対〃の決議を行い、労働歌も高らかに全員合唱を行い市中デモに移つた。

荒尾会場でも大牟田会場と同じく人工衛星やミサイルのデコレーションが登場、人目を引き、いろとりどりの色模様が市中を練り歩いた。なお、今年は大牟田、荒尾の他に柳川、玉名地区でもメーデーを開催、働らくものの意気を示すとともに、すべり出した選挙戦を闘い抜こうとの決意をかためて、市内目抜通りにデモを行つた。

今年のメーデーは闘いの中のメーデーといわれていたので、案外仮装などはなくて、静かなものだと思つて子供づれで参加しました。

笹林公園と違つて、新装なつた体育館を控えている、あの延命公園広場は、始めての会場だつたせいかしら、ほんとに心うきうきなつて会場へ入る足も軽やかでした。

風船やプラカード、それから意外なほどのいろいろな仮装など大変にぎやかでした。なんて労働者の力というものは素晴らしいものだと、一人胸の中で繰返し繰返し自分自身を勇気づけたものでした。こんなに沢山の人たちが全国でメーデーを開いているのだと思いますと、労働者の手でつくる社会というものが、いまにでもすぐに実現しそうな感じさえ抱いたのは私一人でしたろうか

ちようどこの日は総選挙の告示の日だそうです。革新候補の人たちが演壇から力強い挨拶をされるのを聞いていると、どうして日本の国に沢山働く人がいるのに、社会党など革新の人たちが大量に当選しないのか不思議な感じがするのです。もつともつとみんなの人が自先や、情実にとらわれないで、自分自身の周囲に冷静な眼をむけて考えたならば、決して汚職や党略にあけくれする保守派へ一票を投することができましょう。

いつもこのことはいわれて耳にタコのできているほどいわれているのです。いまさら過去のことを云つても仕方ありませんが、こんどこそは、ほんとうに平和を祈い、労働者のためになる人を必ず皆が一人も残らず投票しなければいつまで経つても日本の国はよくならないと、メーデーに参加して一人で考えたことでした。

宮浦 主婦

賑つた前夜祭

荒尾では農村の夕べ

大牟田地区のメーデー前夜祭は二十七、八の両日、大牟田市民会館でふた開けした。

今年は二十七日は昼夜二回、二十八日は夜の部の三回公演であつた両日とも飾つけ終つた会場には早くから観客がつめかけ満員の盛況全員合唱「世界をつなげ花の輪に」で華々しい幕明けを行つた。

水俣、東庄、宮浦、本所のコーラス、三作支部行動隊の寸劇「につぽん号」三鉱主婦会の「私達の歩み」の演芸などなかなか素人とは思えぬ出来ばえに、至るところで拍手が湧く、初参加の西鉄家族組合も「祇園ばやし、三方月ユンタ」などの舞踊を披露して花を添えた。三川支部楽団も得意の楽団サークルを引提げて歌謡曲、その他を演奏すれば、前夜祭の雰囲気はいやが上にも高まり、働くものだけが知る仲間愛というものが、舞台と観客をしつかりと結びつけて何かしら力強い勇気がこんこんと体の中から湧いてくる。

前夜祭も年々盛大になり、いよいよ市民の中へも浸透して行つているようだつた。

さながら村祭り

荒尾地区では一足先に前夜祭を終つたが昨年に引続いて今年も農村慰安の夕べを二十六日午後六時から荒尾市平井小学校講堂で催した働くものの喜びを農民の人たちとともに喜び合おうという目的で昨年この会が計画されたわけだが、平素娯楽に恵まれない農家の人たちも、辺びな平井附近まで出てきて、演芸、合唱、演奏などやつて貰つて大喜び、会場の老婆は「ほんなこて長生きしてよかつたのお見せらすけん」としみじみ洩らしていたのが生々しく耳に入つた。

市職組の女子組合員の舞踊、先生たちの合唱になると拍手の連続だこの日会場に集つた近郊の農家の人たちは約六、七百名あつたろう遠い所もいとわずに続々と集つてきている。アイスクリームの行商人も出店するという村祭りそこのけの大賑い、きわ堂内に音響をこだまして三川支部のコールマインが演奏すれば、拍手と口笛の声援で、木造建築がゆさぶられるほどのどよめきだ。昨年に引続き、いやそれより以上に今年の農家慰安の夕べは盛況に幕を閉じた。

【写真上、大牟田前夜祭 下、農村慰安の夕べ】

元気に大間山へ

本所行動隊のレクレーション

本所支部行動隊では去る二十日（日）新緑の山にレクレーションを行い、大いに清然の気を養つて楽しい一日を過した。

同支部行動隊では労働歌の練習と親睦をかねてこのレクレーションを計画、貸切バスでまず四箇村峠まで直行、尾根づたいに三池山系に足を馴らした。

この日の参加者約五十名、山上で労働歌も高らかに合唱して、持参の弁当に舌づつみを打ち、楽しいレクレーションとなつた。

なお、本所支部ではさきごろ「山の会」の会員を募集していたが、この程と集約したところ、希望者が九十余名あつた。このため来る五月十一日に発会式をかねて第一回の登山を小岱山ときめ、決行することとなつた。

この「山の会」では運動靴を履いて登れる会というのが会の目的である。従来の山岳会となれば高度の技術をマスターしていない者には気易く入会されないという不便があり、気易く山に登ろうと希望する人も不便をかこつていたが、そういう人たちを包がんして、山好きな人は自由に山に登ろうというわけである。

なお、運営の過程の中で高度の登山技術をマスターしたいという声が高まれば、その方針に沿つて運営することも考えられている。

各支部ともさいきん行動隊の総合訓練が活発になつてきており、学習活動、スポーツとなかなか盛んだ。一時参加者がふるわなかつた点で頭を痛めていたがそれも逐次征服して多くの参加者が増えてきているのは喜ばしい。

女学生と対戦

荒尾高と親睦試合

梅雨どきを思わせるうつとおしい雨がさいきん降りつづいているが、四月二十九日、四山グラウンドでは荒尾高校女子ソフトボールチームと、支部主婦会との間で親睦ソフトボール大会を行つた。

揃いのユニホーム姿ではつらつとした女生徒と対するにモンペやエプロン姿の主婦たち。若さの点からすればもちろん比較にならないが、しかしソフトボールではベテランと定評のある四山社宅の主婦たちの対戦だけに観衆も大張切り若さにものをいわせて打ち、かつ守る高校チームを相手に主婦たちの打線も活況をみせたが、思わぬエラーの続出で十対七と三点のリードを奪われ、無念の試合となつた。

はじめての対外試合だけに張切つて敢闘したが、惜敗はしたものの「炭鉱のオバさんたちは強かね」と高校生たちもびつくりしていた。

親睦バレー

万田連合、大谷、四小外来を含む荒尾四小校区地域分会連絡協議会では賃闘、選挙闘争に際して、親睦を深め、団結を強めるため来る十一日に万田グラウンドで家族ぐるみのソフトボール、バレーボールの試合を開催する。